

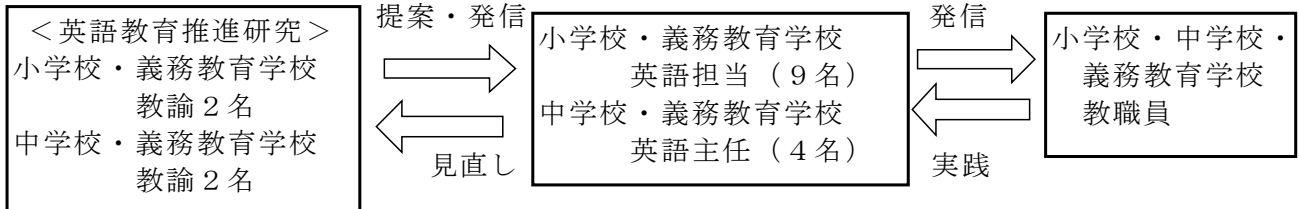
外国語科（英語）教育推進研究

1 はじめに

下野市学校教育計画では、基本方針8「学び」と「育ち」をつなぐ小中一貫教育の推進の中で、外国語教育における「小中の学びをつなぐ指導の充実」を目指してきた。

本研究会においては、各学校における外国語活動及び外国語科の充実を図るため、指導の工夫・改善について研究を進めた。

2 研究組織



3 研究内容

- (1) 小学校・中学校・義務教育学校における取組
- (2) 英語学習に関するアンケート調査結果（Web 掲載）

4 研究の実際

- (1) - 1 小学校・義務教育学校前期課程

事例 1

◇ 聞く活動の工夫



・教科書に掲載されているリスニング問題の中から、絵や写真を手掛かりに子どもとのやり取りを充実させることができる問題を洗い出した。視覚情報をもとに会話の幅を広げたり答えを予想させたりすることで、積極的に聞こうとする意欲付けにつながった。また、新出単語を一方向的に教えるのではなく、「basketball」という単語から「車椅子バスケットボール」の言い方を推測させたり、「wheelchair basketball」から「車椅子テニス」を推測させたりするなど、思考を広げられるようインプット活動を工夫した。

◇ 相手意識・目的意識を持たせる工夫

・言語活動を行う際、相手意識や目的意識を持たせることが、思考力を働かせることにつながる。そこで、単元導入の際に掲げる単元の目標を「〇〇のために・・・しよう」と設定した。例えば、6年 Lesson7「My Best Memory」では、自分の一番の思い出を話す際、中学校で一緒になる「〇〇小の友達と仲良くなるために」と目的を設定した。伝えたい思い出が修学旅行である場合、学校によって時期や旅行日程も違うため、情報を詳しく話す必然性が生まれ、相手の立場（読み手の立場）を意識したプレゼンテーションを作成することができた。

◇ 自分の伝えたいことを伝えるための工夫

イメージマップ↓



・教科書添付のワークシートでは、児童が記入できる行数が限られていたり、文例が示されていたりして、児童の思いが表現できないこともある。板書の際に、イメージマップで自分の言いたいことを書かせるとともに、オリジナルのワークシートを準備するなどし、児童の伝えたい内容を表現させるための工夫を行った。自分で伝えたいことを表現させることで、未習の単語を自主的に調べたり、ALTに発音を確認したりしながらプレゼンテーションの作成に取り組むことができた。

(1) - 2 中学校・義務教育学校後期課程

事例 2

◇ 学習のねらい

「世界がもし100人の村だったら」を読んで、感想や自分の考えを英語で伝えることができる。(New Crown 3 Unit6)

◇ 学習の流れ

- ・「世界がもし100人の村だったら」の内容理解はグループごとにワークシートを使って行う。
- ・読み取ったことを基に、「考えたこと」「もし私だったら」「私たちに何ができるか」を考える。
- ・各グループでプレゼンテーションを作成する時間を確保する。
(語彙の制限は設けず、既習の表現を用いたプレゼンテーション)

◇ 成果と課題

- Unit6で扱った内容と関連する内容を提示したことで、生徒の興味関心を高めることができた。
 - 本単元で扱う仮定法を使った活動を取り入れたことで、文法事項の理解に役立てることができた。また、プレゼンテーションを作成する際にもキーセンテンスを使った英文を多用することができていた。
 - プレゼンテーション作成は、年間を通して数回実施していたこともあり、発表の枠や内容を決めたり、発表の目的を理解したりすることも円滑に進んだ。また、発表する相手を明確にすることにより、使用する語彙を工夫することもできた。
 - 互いに分からない事は教え合い、グループ内で解決することができるとともに、難しい表現は易しい表現に言い換えて伝えるなどの工夫が見られた。
- △作成時間が短かったこともあり、修正する時間を取ることができなかった。発表の前に互いのプレゼンテーションを聞き合い、修正することも今後考えていきたい。
- △個に応じた指導を行う必要がある生徒に対して、グループでの作業の際にどのように支援していくかが課題となった。

<生徒が作成したプレゼンテーション例>

Also, they can get a same education.
All of them can read and write.
They can get a lot of jobs.
Their life will be richer.



If everyone had enough food and clean water, no one wouldn't die of hunger.



(1) - 3 中学校・義務教育学校後期課程

事例3 「ALTの先生に、修学旅行記を紹介しよう！」

◇ 経緯

例年の修学旅行では、外国人旅行客へのインタビュー活動を実施していたが、今年度は実施することができなかった。そのため、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現できるように、以下のような取組を行った。

◇ 学習のねらい

ALTに行きたいと思ってもらえるよう、自分のおすすめの場所を紹介する。

◇ 活動について

- ・英語でコミュニケーション DAYの時間を利用し、第3学年全クラスで実施した。
- ・修学旅行で制作した和本（修学旅行記）のおすすめのページを選び、1人ずつALTに紹介した。（1グループ3～4人、1人1分程度）
- ・紹介した後、ALTの質問に答えるなど、英語でやり取りを行った。
- ・ALTは、10分ごとにローテーションを行い、グループ間を移動した。
- ・活動の様子をタブレットで撮影し、振り返りに活用した。

◇ 成果と課題

- コミュニケーションを行う目的や場面設定が明確になっていたため、生徒たちは目的意識をもって、活動に取り組むことができた。
- ALTの先生と英語でやり取りを行うことで、英語を話すことができたという達成感味わい、さらに英語を勉強したいという学習意欲の向上につながった。
- 生徒たちが、修学旅行で実際に訪れたり、体験したりした内容だったため、自分の考えや気持ちなどを表現しやすかった。また、修学旅行記を活用することで、総合的な学習の時間とも関連を図りながら、活動を行うことができた。
- 話す活動の様子をタブレットで撮影し、振り返りや評価に活用していくことは効果的であった。
- △日頃の授業の中で、言語活動を行う際に、具体的に場面設定を行うことが難しい。今回のように、ネイティブスピーカーと実際に英語でやり取りする機会がさらに増やせるとよい。small talkなどを活用し、話すこと[やり取り][発表]の力をさらに伸ばしていけるよう、指導の工夫・改善に努めていきたい。
- △学期ごとに、パフォーマンステストを実施し、ALTとやり取りを行ったり、ALTの評価やアドバイスを受けたりする機会を設けていく。

★ 修学旅行記をALTの先生に紹介しよう ★

Class No. Name _____

① グループのメンバーを紹介してから、和本を紹介しよう。どのように始めるかは、グループで工夫しよう。（グループ全員で）

例) Hello. My name is ○○. Nice to meet you. We made original books about school trip. We are going to introduce them.

② 表紙を見せて、和本のデザインを紹介する。（個人）

例) Look at this picture. Do you know what this is ?

③ 自分のおすすめのページを開き、内容を説明する。（個人1分～1分30秒程度）

例) This is my favorite page. Have you ever seen this picture ?
This is a place which is popular in Kyoto. Do you know the name of this place ?
Have you ever been there ? This is ○○. It was built by ○○. It is famous for ○○. . . . Thank you for listening.

④ 最後にALTの先生へのメッセージを伝えよう。（グループ全員で）

★ 使ってみよう！★

- ・ We will tell you about ～. (～についてお話しします。)
- ・ We will introduce ～. (～を紹介いたします。)
- ・ Have you ever ～ ? (これまでに～したことがありますか。)

